

# 大学関係者からのメッセージ

東洋大学 理事長 安齋 隆



Hands To Handsについてご協力いただいた多くの方々に心から御礼申し上げます。

ところで、困ったときの神頼みという言葉がありますが、古来日本人は神頼みだけに頼ってきたわけではありません。お互いの協力、隣近所に手助けをする風土は全国どこにでもありました。典型的なのはお伊勢参りにお金が無いとき、隣近所で皆がお金を出し合ってそのうち1、2人がお参りに行きました。そして、翌年はほかの人に順番が回ります。

「結」の制度もありました。一家の主人が病気の時、近所の人たちが手助けをして田畑を耕す手伝いをしていました。いずれわが身が病気になった時にはお返しがあります。

このような気持ちは皆様とともに大事にしていきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

## 東洋大学 学長 矢口 悦子



校友の皆様、教職員・役員をはじめとしたたくさんの方々によるご支援は、学生たちの生活を支え、心も温かく満たしてくださいました。そして、「今度は自分が支え手になりたい」という気持ちへと導いてくださいました。

このバトンを大切に引き継いでいくことで、ご支援くださった皆様への御礼とさせていただきます。

この度の温かいお心遣い、誠にありがとうございました。

## 東洋大学校友会 会長 神田 雄一



校友会ではいち早く「Hands to Hands プロジェクト」に賛同し、多数の校友にメールマガジンで呼びかけるなどしました。

お陰様で多くの校友の皆さまからご寄付を頂き、学生の皆さまにお渡しすることができました。学生の皆さまのお役に立つことが出来て大変嬉しく思っております。

コロナに負けず勉学に奮闘して下さい。

## 東洋大学甫水会 会長 川本 正信



寄贈いただいた皆様に心より感謝申し上げます。  
コロナ禍にあっても、決して一人ではありません。  
ピンチを乗り越えれば、必ずチャンスがやってきます。  
甫水会は、全国のご父母の皆さんと共に、頑張る東洋大生を  
応援しています。

## 東洋大学 社会貢献センター長 森田 明美



リュックにいっぱいの食料品の重さは、思いやり、幸せの重さです。誰が食べてくれるか楽しみに重い食料品を大学まで運ぶのは大変ですが、空になった袋にはそれを受け取ってくれた学生の笑顔がいっぱい詰まります。

それをつなぐ学生ボランティアは、お互いをつなぐ幸せを感じながら袋詰めをして幸せと一緒に感じます。支え合いにはそんな笑顔が交差します。

コロナ禍のなかでみんながつながり、広がっているって幸せです。

半年余りのこの活動から私たちがもらったものはあまりに大きなものになりました。小さな手から始まった活動がつながって大きな活動に広がりました。これからもこの楽しさを忘れずにつながり続けましょう。

ご参加ありがとうございました。

## 東洋大学 国際学部 教授 子島 進(発起人)



東洋大学には、学生をサポートしたいという教職員や卒業生が大勢います。そして、教育研究を進める中でできたネットワークも全国に広がっています。今回は、福島県いわき市の農家や大塚モスク(豊島区)からも支援物資が届きました。

これからも、みなさんが安心して勉強できるように応援していきます。

留学生のみなさんも 加油！ 화이팅! كوشش

and Do your best at study!